

総合人間科学 倫 理 学

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	1 人	(0 人)
研究生	1 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	3 人	

2 教員の異動状況

森下直貴 教授 2002 年 11 月～現職

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	10 編	(10 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴、近代日本倫理学の〈共同性へのまなざし〉—特殊性ではなく、《普遍的個性》へ—、主題別討議報告「近代日本倫理学の総括ないし反省」堤題 1、倫理学年報、第 63 集、52-55、2014.3

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

1. シリーズ生命倫理学全 20 巻、編集委員会幹事：栗屋剛、倉持武、霜田求、藤野昭宏、森下直貴、丸善出版、2012.1～2013.3、全巻完結（年度内 10 巻）

5 医学研究費取得状況

	平成 24 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	2 件	(360 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 基盤研究 (B) (22320004) 先端科学技術の「倫理」の総合的枠組みの構築と現場・制度への展開
平成 22～25 年度 25 年度：260 万円
2. 挑戦的萌芽研究 (24652003) 明治期「日本哲学」の可能性をめぐる研究
平成 24～26 年度 25 年度：100 万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	4 件
(3) 学会座長回数	1 件	1 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	3 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

4) 国際学会・会議等での座長

1. **N. MORISHITA**, 10th International conference of ISCB, Kushiro, Hokkaido, Japan, Aug. 28th-31st, 2013

5) 一般発表

口頭発表

1. **N. MORISHITA**, How is “worldwide” bioethics possible? : A comparative viewpoint addressing “ethical diversity”, 10th International conference of ISCB, Kushiro, Hokkaido, Japan, Aug. 31th, 2013

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

1. 森下直貴、「良心」をめぐる大西祝と井上哲次郎——明治期における「哲学」観の衝突、日本思想史研究部会、名古屋哲学研究会、名古屋市大、2013.5.18
2. 森下直貴、近代日本倫理学の＜眼差し＞——複雑性に耐えうる思考を求めて、主題別討議報告「近代日本倫理学の総括ないし反省」堤題1、日本倫理学会、愛媛大学、2013.10.5
3. 森下直貴、倫理、倫理的コミュニケーション、それに倫理学、生存科学研究所、東京、2013.2.28
4. 森下直貴、テクノ・サイエンスエシックスの一般理論への序説——先端科学技術の「倫理」の総合的枠組みとは何か？ 科研費研究会、下呂/湯之島館、2014.3.20-21

4) 座長をした学会名

1. 日本医学哲学・倫理学会、大阪歯科大学、2013.10.19

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 日本医学哲学・倫理学会 評議員
2. 日本生命倫理学会 総務委員
3. 中部生命倫理研究会 運営委員長

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 現代社会の複雑性に対応できるような倫理システムの構築をめざしている。そのために、一方では人間の脳やロボットをめぐる理論的・応用的研究を考慮し、他方ではルーマンのシステム理論・コミュニケーション理論・社会分化理論を踏まえながら、倫理という思想システムを根本から再考している。その骨格とを見定めることができた。
2. 明治期の哲学思想に関して井上哲次郎を中心に読み直している。とくに明治中期の『哲学会雑誌』を綿密に調べ、哲学観の衝突を四つのステージに渡って明らかにした。そしてその中で井上と大西祝の良心論を比較検討した。さらに加藤弘之、西村茂樹、井上毅の思想を合わせながら、明治期の哲学思想を立体的に描く研究を進めている。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 現代の機能システムの多元性に対応する倫理システムの構築という試みは、欧米にもアジアにも見当たらないものである。その研究成果は26年度中に書物にまとめられる。
2. 明治期の哲学思想の再把握を通じて、近代日本の思想のみならず、日本思想史の全体を捉え直すという試みはこれまで見当たらない。今後の展開が期待される。